



発行所：ベトナム子供基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話(代表)：03-3946-4121 ファクス：03-3946-7599

電子メール：kodomokikin@nifty.com ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/vcf/>

ベトナム子供基金通信

No. 45

2008. 11. 22



今年5月、11年ぶりにベトナム中部の町ホイアン (Hoi An) を訪ねました。

ホイアンにはかつて、日本人町があって、日本人の墓がいくつか確認されています。その中でも、前回1997年3月にも訪ねた、広大な水田の中にぽつんとある墓を再訪しようと思い立ち、記憶を頼りにのんびり歩き出したものの、道に迷ってしまいました。

炎天下、途方に暮れていると、ちょうど家の軒先で昼間から酒盛りをしている青年たちに出会い、

ビールを1杯だけごちそうになりつつ、道順を聞けば、青年の一人が、墓の主の悲恋のストーリーを語ってくれたのでした。

幹線道路に出てしばらくすると、前回は見つけられなかった別の墓と今回の目的の墓の案内板が出ています。便利になった一方、味気なさも感じます。

11年前は、竹が生い茂る農村の小道で迷っていると、5人の子どもが駆け寄ってきて、僕の手を引き、案内してくれたのでした(写真)。

周りの大人たちはその様子を見て笑っています。あとで、「コーラが飲みたい。ワンダラーちょうだい」とガイド料をねだられたわけですが。

今回、独りであぜ道を歩いていると、用水路の脇に、薄紅の蓮のつぼみを見つけました。一輪だけ、風に揺られながら、強い日差しを浴びています。周りにはほかに花は咲いていません。不思議な光景でした。これもひとつの出会いなのでしょう。

もちづき よしのり
(望月 良憲)

ベトナム見録



フエの子どもたち

中部の歴史遺産群

中部ベトナムでは、ダナン (Da Nang)、ミーソン (My Son)、ホイアン (Hoi An)、フエ (Hue) などを見学した。

ダナンのチャム彫刻博物館やミーソンの遺跡は印象的であった。これらの素晴らしい文化財を残

美しい街である。ここへ来て、初めて暑さを感じなかった。周辺の農村では、田植えが盛んに行われていた。南の方では、水田をびっしり埋めるほどに育っていた稲が、この辺りでは、まだ半分も田植えが終わっていない。この春は、気温がなかなか上がらないので、田植えができないでいたという。ここには四季があり、春に植え、秋に刈っているようだ。その風土、物腰、暮らし向きなど、南の方とはかなり違うという印象を受けた。

ベトナム子供基金にかかわることになったが、ベトナムのことは、ほとんど何も知らない。そこで、まず現地を見てこようと思い立って、ベトナムに行ってきた。2008年3月27日から4月2日まで7日間。コースは南から北へ約1,000キロ。飛行機と自動車を乗り継いでのことである。

ベトナムは暑い

東京を朝発ち、午後にはホーチミンに到着した。ホテルに入るにはまだ早い時間なので市内の様子を見て回った。とにかく暑い、どこへ行っても暑いというのがベトナムの第一印象だった。タイ、マレーシア、インドネシアなど熱帯地方に何度も行った経験があるが、こんなに暑いと感じたのは、初めてのことだ。あふれるばかりの自動車とバイク。その騒音と人々の熱気。バンコクやジャカルタなどと同様、ホーチミンもまた南アジア特有の活気に満ちていた。

すほどに繁栄していたチャンパ王国は、その後どこへ行ってしまったのだろうか。

世界遺産にもなっている港街ホイアンも魅力的だった。16世紀後半には、何百人もの日本人が移住してきていて、日本人街を作ったという。海洋民族「日本」の夢と行動力を感じさせられる話である。

フエでは王宮や皇帝陵を見学し、また広場で遊ぶ子どもたちの輪の中に入る機会を得た。

ハノイ＝四季のある街

ハノイは、湖と街路樹の多い、



バッチャン村小学校
元気に跳び回っている子どもたち



家路を急ぐ女学生 (ホイアン郊外にて)

屈託のない子どもたち

ベトナムで見かけた子どもたちは、都市であれ、農村であれ、どこでも生き生きとしていて、少しも屈託がなさそうだった。どのような環境であれ、それぞれの時間を精一杯楽しんでいるように思えた。実際は、どうなんだろうか。

帰ってから、最新の文献をひもといてみたら、次のような記述があった。

矛盾多い教育事情

教育については、1990年代末に

は学齡児の90%以上が小学校に就学していた。しかし、膨らむ教育費が家計を圧迫し、'00年には小学

校の就学率が減少に転じている。授業料は抑えられているものの、30近くの各種名目の学費がかさみ、

子どもたちの「失学（ドロップアウト）」が急増しているという。
おくやま よしお
(奥山 義夫)

ナムディン省にジャンちゃんを訪ねる



ジャンちゃんと筆者(右)

今年の6月14日からの9日間、私は夏期休暇を利用してベトナムとラオスを旅行してきました。

旅の一番の目的はもちろん、里子のゾアン・ティ・ジャンちゃんに初めて会いに行くことです。

3時間でナムディンの村へ

ハノイのホテルから通訳をしてくれる大学生のトゥイさんに同行してもらい、車で走ること約2時

間でナムディン(Nam Dinh)省に到着。そこからさらに1時間ほどでようやくジャンちゃんの住むジャオチャウ村に着き、村の奨学会の方に案内していただきやっとジャンちゃんのお家までたどり着きました。

初めて会ったジャンちゃん

ジャンちゃんはお母さまとは離れて、学校に通いやすいおじいさまの家と一緒に暮らしているそうで、まずはおじいさまのお家を訪問させていただきました。

初めて会ったジャンちゃんはとても緊張しているように見えたが、徐々に慣れとてもかわいらしい笑顔を見せてくれ、手をつないだり二人で写真を撮ったり、一人っ子の私には子どもというよりもかわいい小さな妹ができたようなうれしい気持ちになりました。

しっかり勉強している！

おじいさまの家でジャンちゃんは自分の部屋と勉強しているノートを見せてくれました。部屋は4畳半くらいで机とベッドが置いてあり、机上もきれいに整頓されていました。

ノートもまた、とてもきれ



かわいらしいベトナムの人形

いな丁寧な字でしっかりと書かれていて一生懸命勉強している様子が伝わってくるものでした。

その後、車で数分の所にあるお母さまの家ともう一人のおじいさまの家を見せていただきました。

たくさんの人の協力に感謝！

ジャンちゃんのお家でライチやブドウでおもてなししていただいたこと、また、ナムディン省やジャオチャウ村の奨学会の皆さまも私たちの訪問のために時間を割いていただいたこと、多分一日中一番緊張していたであろう通訳してくれたトゥイさんに大変感謝しております。

今回は、あまりジャンちゃんと二人で話すことができませんでしたが、また今度ゆっくりと話し合いに行きたいと思います。まだ小学生です。これからの長い学生生活、頑張って勉強してほしいと思います。

かくた えり
(角田 依里)



ジャオチャウ村で記念のスナップ

メコンデルタへの旅

メコンデルタ

6年ぶりでベトナムに行ってきた。行く前にどこに行こうかと大いに悩んで、これまで行こう行こうと思いつながら行く機会に恵まれなかったメコンデルタを選んだ。

メコンデルタという言葉を目にすると、すぐわたしは「豊饒^{ほうじょう}」という言葉が浮かぶ。メコンデルタを流れる川幅数百メートルのメコン川。多くの支流を持ち、そこからは魚が採れ、デルタからは米、野菜・果物が収穫できる。

メコン川は橋が架かっているところもあったし、橋を架ける工事をしているところもあったが、今回は3回フェリーで川を渡った。いずれも対岸に着くまで10分という感じである。川幅は500メートルはあるだろうか。水は黄土色である。



ツアーの参加者

ホーチミン市に生まれて育った女房に「メコンデルタに行きたい」と告げると「何も面白いところはない」とのすげない返事であった。それでも3泊4日のツアーを探して申し込んでくれた。

ツアーの参加者は35人ほどで、

大人が25人、子ども10人くらいである。若い家族連れが多い。ほぼベトナム人である。

といっても香港や台湾に住んでいるボートピープルの2世の若い夫婦が子どもたちにさまざまなベトナムを見せるということのようである。そのほかにハノイの二人連れのおばあさん、フランス人と結婚して里帰りしている夫婦などである。

カントー

今回行ったところは、カンボジア国境寄りのティエンザン (Tien Giang) 省ミートー (My Tho) 市やカントー (Can Tho) 省カントー市などである。

カントーは“カントーは米白く、水は澄んでいる。一度カントーへ来たものは帰る心を失う”というくらい豊かなところである。

カントーでは有名な水上マーケットを見た。またハーティエンではオウギヤシジュースを飲んだ。

アジアのいろいろなところでヤシの実のジュースを飲んだが、上品な甘さで、甘さに雑味がない。これまで飲んだ中で一番おいしかった。聞くところによると、ハーティエンのオウギヤシから作る砂



糖は高級品で、おばあさんなどはおかゆに入れるとのことである。

雨季

今回の旅行は7月だったのでちょうど雨季である。最終日の夕方ホーチミン市に戻ったときはバケツをひっくり返したような雨が降る夕方のラッシュ時である。

ところどころで停電している。タクシーがつかまるかと窓の外を心配しながら見ていると、前の席の香港の若い夫婦は慣れた感じで携帯電話でタクシー会社に電話して、無線タクシーをバスターミナルまで頼んでいる。

彼らにわれわれの分のタクシーをお願いする。

バスターミナルに着いて5分もしないうちにタクシーが現れた。「うーん、素晴らしい」と思いつつ、「ベトナムは変わりつつあるのだ」との感じを改めて抱いた。

今回の旅行でも、ホーチミン市や観光地で、おばあさんや小学生くらいの子どもたちが、宝くじを売り歩いている姿を見かけた。ついつい先日89歳で亡くなった自分の母親の老後と比べ胸が痛んだ。ベトナムはこれからも多くの問題を内に抱えたまま、このまま前進していくのであろうか。

みなみ やすお
(南 康雄)



トナムからの手紙

姉が退学しました

ホー・ティ・ホン・トー

私は現在ドンタップ (Dong Thap) 省のチャン・クック・トアン高等学校1年に在学しています。

私の家族は4人ですが、耕作地がないので、両親は私たち姉妹を学校に行かせるために日雇いの仕事をしています。

家族の生活費と私たちの学費を全部稼げるわけではないので、姉はやむを得ず学校を退学して両親を手伝わなければならなくなりました。

奨学金を与えていただいたことは勉強のチャンスを下さったことなのです。この手紙で里親さまや奨学会の皆さま方に心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。

里親さまや奨学会の皆さんの期待を裏切らないように、もっと努力していきたいと思います。頂いたお金を勉強に使い、将来、社会に役に立つ人間になれるように頑張ります。

本当にありがとうございます。

(Ho Thi Hong Tho)

両親の苦勞、涙が出ます

グエン・ヴァン・バン

僕は現在、チュ・ヴァン・アン (Chu Van An) 中学校3年A組

で勉強しています。

この手紙で里親さまへ感謝の気持ちを送りたいと思います。

僕の家は「掘っ立て小屋」といったほうがいいです。家には壁やドアはなく、木の板を立て掛けています。屋根には大きな穴がたくさんあいているので、雨のときは家の中がビショビショになって、台所で使う薪まで全部ぬれてしまい、料理が準備できないというときが数えきれないほどあります。



事情があって、両親は家族の所有する土地の大部分を売らなければならぬことになり、今は家をやっと建てられる数平方メートルしか残っていません。

僕の家族は4人いますが、両親しかお金が稼げません。父は大工の仕事をして、1カ月1万円ほど稼ぎますが、税金を納めないといけないので、手取りは多くありません。母はパートタイムで働いて、1カ月3千円ほどもらいます。



両親の収入では余裕があるとはいえませんが、それで生活してきました。しかし、最近物価が高くなっているため、前よりも働かなくてはなりません。毎日、両親を見て何回も涙を流しました。

僕はまだお金を稼ぐ仕事の手伝いはできませんが、勉強だけはしっかりやっていきたいと考えています。里親さまのおかげで、父と母の負担も軽くなり、僕も安心して勉強に励むことができるようになりました。

僕と同じように援助を頂いているほかのたくさんの方と一緒に、里親さまへ深い感謝の気持ちを申し上げたいと思います。本当に、本当にありがとうございます。

(Nguyen Van Bang)



幼いころのつらい記憶

ブイ・トゥ・ハ

私はタイビン (Thai Binh) 省ホンミン町にある中学校3年 (日本の中学2年) A組の生徒です。

奨学金は、金銭面の支援のみにとどまらず、勉学や他の活動における精神的な力も与えてくれます。里親さまに成績をお知らせしても恥ずかしくないようにいつも頑張っています。

まだお会いしていないのですが、心の中でいつも大変感謝しています。

小さいころの記憶の中に、いつまでも忘れられないことがあります。学費を支払う時期になるたび、いつも準備ができていなかったことです。

先生に聞かれても「忘れました。ごめんなさい」としか言えませんでした。

恥ずかしくて自分の家庭状況を誰にも話すことができませんでした。

父は、母と私を残し家を出て行ってしまいました。母は50歳を過ぎており、農業で家計を支えています。朝から晩まで働いていますが、生活していくのにぎりぎりです。

私は母がとても好きなので、責めようと思ったことはありません。学校が終わった後は、家事をできるだけ手伝っています。

母の負担が少しでも軽くなるように何か良いことが起きたらなと願うばかりでした。

その願いがやっと実現し、中学

1年生 (日本の小学6年) のある日、担任の先生から青葉奨学金に推薦される知らせを受けました。その後、この奨学金は日本の里親さまから支給されていることを知り、びっくりしました。

3年間、この奨学金は、精神的な友達のようにいつも一緒にいて、私に自信を与えてくれています。

家族の苦しみを遠くから見守って、私を応援してくれる人がいると思うと、困難を乗り越え、自分の夢を実現する自信がわいてきます。心より感謝しています。

最後になりましたが、皆さまのご健康、ご幸福をお祈りしています。

(Bui Thu Ha)

大学を終え、就職しました！

ラム・チ・クオン

里親さまとご家族の皆さまの健康と幸福をお祈りしています。

この手紙で私は里親さまに良い知らせを伝えたいと思います。

第一は、私が2008年4月11日に大学を卒業し、産業マネジメントの学士になったことです。

初めて仕事につき、もう2カ月近く働いています。

私の会社は石油の分野で使われているエンジンの設計、製造を行っています。私は企画課でプロジェクトのプランナーとして働いています。全体的に仕事は順



調です。

給料は高くはありませんが、自分自身を支え、わずかですがお金を両親にあげる余裕があります。私は幸せです。

これは私が里親さまに報告したい第二のことです。この知らせを聞いて里親さまが喜んでくださることを望んでいます。

私は6年間の里親さまの支援に感謝しています。これからも期待を裏切らないように頑張りたいと思います。

私は最善を尽くし、お世話になった青葉奨学会の人たちを支えたいと思います。

私たちはEメールで連絡を取り合うことができます。里親さまのEメールのアドレスを教えてください。返事をお待ちしています。

(Lam Tri Cuong)



(写真と本欄の文章は関係ありません)

●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(敬称略 「新」は新規会員)

2008年6月

2008年7月

2008年8月

2008年9月

■日越外交関係樹立35周年記念交流事業(ベトナムフェスティバル2008)が、9月20、21日東京の代々木公園で盛大に実施され、ドンズー留学生会と当基金など3つのベトナム関係団体が共同参加しました。

■ベトナムスタディーツアーを実施。当該実行委員会主催のベトナム等の調査旅行が10月10日から18日まで実施され、会員9名が参加しました。ベトナムでは、青葉奨学会のお世話で里子(家庭を含む)を訪ねたほか、孤児院、障害児学校などを訪問しました。さらにベトナムで活躍している元日本留学生のお世話で、現地大学生や日本語学校生と交流しました。詳細は次号で報告します。

■帝国劇場のご好意により、ミュージカル『ミス・サイゴン』上演中(8-10月)、ベトナムの恵まれない子どものために、当基金の募金箱が劇場内に2カ所設置されました。ベトナムに関心を持たれている(株)東宝の役員ならびに出演俳優の特別のご配慮によるものです。募金総額は47万余円に上りました。ありがとうございました。関連記事を次号に掲載いたします。

■「アジア文化会館(ABK)インターナショナル秋祭り」が10月18日(土)に、ABK 向かいの文京グリーンコート桜の広場で行われました。当基金も在日ベトナム留学生とともに参加し、文京区民の皆さまとの交流の一日を送りました。留学生の作ったベトナム名物「生春巻き」(200円)は好評で、あっという間に完売でした。ご参加の皆さまありがとうございました。準備や当日の業務に奔走された皆さまご苦労さまでした。



帝国劇場に設置された募金箱(右)

◆ベトナム子供基金(会員を募集しています)

里親基金：年額1口2万円 学生会員：年額1口1万円	特定の「里子」に奨学金を支給する里親になっていただきます。ベトナム青葉奨学金から里子の履歴票が届き、里子と手紙のやりとりができます。
一般基金 年額1口1万2000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。子供基金通信によって、会の運営、子どもたちの様子をお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数等、いっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。当該学校に黄梅奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金 1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金 1口1万円	複数のベトナム子供基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

家や親のない子、ゴミ拾いの子、障害児、ストリートチルドレンに愛の手を！

— ホウ工代表、本基金会員に「春の木運動」への協力を要請 —

アメリカ発の経済不況に揺さぶられた2008年でした。日本の政治も激震を続けました。ベトナムでは経済格差がさらに拡大し、不登校者が増大するという心配な事態が起きています。そのベトナムの「青葉奨学会」代表グエン・ドク・ホウ工さんから「春の木運動」への支援要請が届きました。「春の木運動」は「テト（旧正月 '09年1月24日）」に合わせ、新年を祝う経済余力のない子どもに、学校の制服（シャツ）や文房具を贈る活動です。貧困にあえいでいる子どもたちに浄財をお寄せくださいますようお願い申し上げます。以下はグエン・ドク・ホウ工さんからの趣意書です。

「春の木運動」趣意書

日本の友人の皆さま

ドンズー日本語学校 ドンズー育英会・青葉奨学会 代表 **グエン・ドク・ホウ工**

皆さまにおかれましては、ますます御健勝の御事とお慶び申し上げます。この書面をもって、2009年「春の木」を樹立するためのご協力をお願いいたします。「春の木運動」は今回で18回になります。

ドンズー日本語学校および青葉奨学会は、今までさまざまな社会活動を行ってきました。ベトナム全国各地の貧しく勤勉で優秀な学生に奨学金を贈る活動、学校がないへき地に学校を建てる活動、日本に留学生（苦学生）を送る活動などです。

毎年、クリスマスの季節になると、年末の買い物やテトの準備をする買い物客で、街はにぎわいます。華やかに飾られたイルミネーションがキラキラと輝き、軽快なリズムの音楽に心を躍らせます。

でも、その一方で、ベトナムには恵まれない子どもたちもいるのです。彼らは、帰る家もなく、温かく迎えてくれる家族もなく、寂しく孤児院で生活しています。また、街で生活しているストリートチルドレンもいます。

街の中をさまよい、お金を稼いでいる子どもたちがいます。両親が必死になって働いて、やっとその日を過ごせる貧しい家庭の子どもがいます。学校にも行けず、友達もなく、一人寂しく生活している子どももいます。

私たちが新年の喜びを迎えるとき、彼らも心の中で「ボクも、新しい服が欲しい。みんなと一緒に新しい年を祝いたい」という思いを神様に願っているはずです。

それは私たちにとってはごく小さな願いかもしれませんが、でも彼らにとっては、とても大きな願いなのです。誰も買ってくれる人がいない、そして自分の力では買うこともできないのです。

でも、私たちなら1食分の金額で買うことができます。制服（シャツ）1着は45,000ドン（300円弱）です。新年に新しいズボンに新しいシャツを着る。それは子どもたちにとって、心躍らせる、夢のような喜びです。その願いをかなえるために、ご支援をいただけませんか。皆さまの幸せの一部をベトナムの恵まれない子どもたちに贈ってくださいますようお願い申し上げます。

購入した制服などは、孤児を養育するお寺、教会、ホーチミン市とその近隣の孤児院、盲学校、ストリートチルドレンハウス、愛の教室の子どもたちに配布されます。

この手紙を通して私どもの気持ちが日本の友人の皆さまに伝わり、一人でも多くの方のご賛同を得られることを願っています。何卒よろしく願いいたします。

なお、日本の友人の皆さまは、私どもの姉妹団体「ベトナム子供基金」を通してご送金いただければ幸いです。

※ご送金の方法等は別紙をご覧ください（VCF事務局）。



ベトナム青葉奨学会 QUY HOC BONG LA XANH 電話：84-8-8477359 ファクス：84-8-8477527
c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU 43D/46 Ho Van Hue, Q. Phu Nhuan, Ho Chi Minh, Viet Nam
日本の「ベトナム子供基金」は、ベトナムの「青葉奨学会」を通し、ベトナムの子どもに贈られます。